



Informatica® Cloud Data Integration
October 2022

トラブルシューティング

Informatica Cloud Data Integration トラブルシューティング

October 2022

2022 年 10 月

© 著作権 Informatica LLC 2006, 2022

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica Cloud、Informatica Intelligent Cloud Services、PowerCenter、PowerExchange、および Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2022-12-01

目次

序文	4
Informatica のリソース	4
Informatica マニュアル	4
Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト	4
Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ	4
Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス	5
データ統合コネクタのドキュメント	5
Informatica ナレッジベース	5
Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center	5
Informatica グローバルカスタマサポート	5
第 1 章：トラブルシューティング	6
Secure Agent のトラブルシューティング	6
Secure Agent のエラー	7
詳細クラスタのトラブルシューティング	7
AWS 上の詳細クラスタのトラブルシューティング	9
Microsoft Azure 上の詳細クラスタのトラブルシューティング	11
接続のトラブルシューティング	12
接続エラー	12
アセットのトラブルシューティング	12
タスクのトラブルシューティング	13
タスクエラー	13
マッピングタスクのトラブルシューティング	14
詳細クラスタサブタスクのトラブルシューティング	14
同期タスクのトラブルシューティング	16
同期タスクのエラー	16
レプリケーションタスクのトラブルシューティング	17
レプリケーションタスクのエラー	18
マスキングタスクエラーのトラブルシューティング	19
PowerCenter タスクのトラブルシューティング	21
PowerCenter タスクのエラー	21
マッピングのトラブルシューティング	22
スケジュール済みタスクのトラブルシューティング	23
セキュリティのトラブルシューティング	23
索引	24

序文

Informatica Cloud® Data Integration のエラーのトラブルシューティングに関する情報は、「トラブルシューティング」を参照してください。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト (<http://www.informatica.com/cloud>) にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration>

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers>

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

<https://marketplace.informatica.com/>

データ統合コネクタのドキュメント

データ統合コネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center (<https://www.informatica.com/trust-center.html>) にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

登録するには、<https://status.informatica.com/> に移動し、**[更新を購読登録]** をクリックします。その後、電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィードとして、またはこの 4 つを任意に組み合わせて送信された通知を受信することを選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインでカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートについては、Informatica Intelligent Cloud Services の **[サポート要求の送信]** をクリックしてください。またオンラインサポートを使用して問題を記録することもできます。オンラインサポートを利用するには、ログインが必要です。<https://network.informatica.com/welcome> でログイン要求できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。

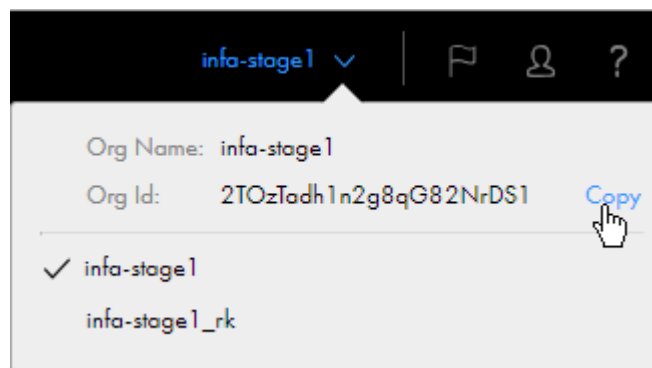
第 1 章

トラブルシューティング

次のセクションを使用して、データ統合のエラーをトラブルシューティングします。

注: データ統合のサポートを受けるには、組織 ID を Informatica グローバルカスタマサポートに伝える必要があります。組織 ID は、右上隅にある【組織】メニューから確認できます。

次の図は、【組織】メニューを示しています。



組織 ID をコピーするには、【組織 ID】フィールドの右側にカーソルを置くと表示される【コピー】オプションをクリックします。

組織 ID は、管理者の【組織】ページで検索することもできます。

Secure Agent のトラブルシューティング

Secure Agent をインストールしましたが、別のマシンにも Secure Agent をインストールしたいと考えています。どのようにすればよいでしょうか？

新しいマシンで、自分のログイン情報を使用してデータ統合に接続します。次に、Secure Agent をダウンロードしてインストールします。

Secure Agent のエラー

Secure Agent を開始しましたが、そのステータスが非アクティブになっています。

Secure Agent の開始には数分かかることがあります。ステータスは 5 秒ごとに更新されます。Secure Agent がアクティブにならない場合は、次のタスクを実行します。

- 組織がプロキシサーバーを使用してインターネットにアクセスする場合は、プロキシ設定が正しく設定されていることを確認します。
- Secure Agent をインストールしたディレクトリにある infaagent.log の詳細情報を表示します。

Secure Agent が正常にインストールされない、または開始されません。

Secure Agent が正常にインストールされないか開始されない場合は、次のタスクを実行します。

1. Secure Agent をインストールしたディレクトリにある infaagent.log で、インストールの詳細情報を確認します。
2. Windows で実行されている Secure Agent のイベントビューアで、アプリケーションログを表示します。

サービスの 1 つを正常に再起動した後に、エラーステータスが表示されます。

サービスがエラーステータスで失敗すると、サービスが正常に起動された後でも、サービスのエラーステータスが引き続き「エージェントサービスの詳細」に表示されることがあります。古いメッセージをクリーンアップする内部ジョブが実行されるまで、エラーはページに表示されます。このエラーは無視してかまいません。

Secure Agent をアンインストールしようとしていますが、Secure Agent のステータスは「稼働中」のままです。

最初に Secure Agent を停止せずに Secure Agent をアンインストールすると、Agent Core と他のサービスの実行が数分間継続することがあります。この問題を回避するには、Secure Agent を停止してからアンインストールします。

詳細クラスタのトラブルシューティング

詳細クラスタのステータスが不明の場合、どうすればよいですか。

クラスタのステータスが不明の場合は、最初に Secure Agent が稼働している事を確認します。エージェントが稼働していない場合は、エージェントを有効にして、クラスタの稼働開始を確認します。

クラスタが始動しない場合は、管理者がクラスタをリストするコマンドを実行できます。コマンド出力が一部または使用中のクラスタ状態を返す場合、管理者はクラスタを削除するコマンドを実行する事ができます。

コマンドの詳細については、Administrator ヘルプを参照してください。

詳細クラスタのトラブルシューティングを行うために ccs-operation.log ファイルを調べましたが、十分な情報を得られませんでした。他にどこを調べればよいですか。

詳細クラスタのインスタンス専用の cluster-operation ログを確認できます。外部コマンドセットの実行が開始されると、ccs-operation ログに cluster-operation ログへのパスが表示されます。

以下に例を示します。

```
2020-06-15 21:22:36.094 [reqid:] [T:000057] INFO : c.i.c.s.c.ClusterComputingService [CCS_10400]
Starting to run command set [<command set>] which contains the following commands: [
<commands> ;
```

]. The execution log can be found in the following location: [/data2/home/cldagnt/SystemAgent/apps/At_Scale_Server/35.0.1.1/ccs_home/3xukm9iqp5zeahyrb7rqoz.k8s.local/infra/cluster-operation.log].

指定されたフォルダには、クラスタのインスタンスに属するすべての cluster-operation ログが含まれます。ログを使用して、コマンドセットの完全な stdout および stderr 出力ストリームを表示できます。

ログ名の数字はログの生成を示し、各 cluster-operation ログは最大 10 MB です。例えば、外部コマンドの実行中にクラスタインスタンスが 38 MB のログメッセージを生成した場合、フォルダには 4 つの cluster-operation ログが含まれます。最新のログのファイル名では 0 で、最も古いログのファイル名では 3 です。cluster-operation0.log ファイルのメッセージを表示して、最新のエラーを表示できます。

エラスティックサーバーのログレベルを DEBUG に設定すると、ccs-operation ログに cluster-operation ログと同じ詳細レベルが表示されます。

init スクリプトが失敗したノードの初期化スクリプトログを見つける方法

init スクリプトログを見つけるには、次のタスクを実行します。

1. Secure Agent マシンの次のディレクトリに、ccs-operation.log ファイルがあります。
<Secure Agent installation directory>/apps/At_Scale_Server/<version>/ccs_home/
2. ccs-operation.log ファイルで、次のようなメッセージを見つけます。
Failed to run the init script for cluster [<cluster instance ID>] on the following nodes: [<cluster node IDs>]. Review the log in the following S3 file path: [<cloud platform location>].
3. メッセージで示されているクラウドプラットフォームの場所に移動します。
4. クラスタノード ID を、init スクリプトが失敗したノードの init スクリプトログファイル名と一致させます。

詳細クラスタの次のエラーメッセージでリソース要件はどのように計算されますか。

```
2019-04-26T19:04:11.762+00:00 <Thread-16> SEVERE: java.lang.RuntimeException: [java.lang.RuntimeException: The Cluster Computing System rejected the Spark task [Infaspark0] due to the following error: [[CCS_10252] Cluster [6bjwune8v4bkt3vneoki9.k8s.local] doesn't have enough resources to run the application [spark--infaspark0e6674748-b038-4e39-a2a9-3fd49e63f289infaspark0-driver] which requires a minimum resource of [(KB memory, mCPU)]. The cluster must have enough nodes, and each node must have at least [(KB memory, mCPU)] to run this job.].]
```

最初のリソース要件は、Spark ドライバと Spark エグゼキュータが必要とするリソースの総数です。

2 番目のリソース要件は、最低 1 つの Spark プロセスを実行するための各ワーカーノードの最小リソース要件に基づいて計算されます。

リソースは次の式を使用して計算されます。

Memory: MAX(driver_memory, executor_memory)
CPU: MAX(driver_CPU, executor_CPU)

Spark プロセスは、Spark ドライバプロセスまたは Spark 実行者プロセスのいずれかです。クラスタでは、各ノードがドライバまたは実行者のいずれかを実行するための最小要件を満たすノードを 2 つ使用するか、ドライバと実行者の両方を実行するために十分なリソースを持つ 1 つのノードを使用する必要があります。

注: ドライバおよびエグゼキュータのリソース要件は、マッピングタスクの次の詳細セッションプロパティを設定する方法に応じて異なります。

```
spark.driver.memory
spark.executor.memory
spark.executor.cores
```

最小リソース要件の詳細については、Administrator ヘルプを参照してください。

クラウドプラットフォームで Secure Agent マシンをシャットダウンしたが、一部のジョブはまだ実行されている。

エージェントマシンをシャットダウンすると、エージェントは新しいマシンで起動しますが、ジョブは新しいマシンに引き継がれません。

Monitor で、ジョブをキャンセルして再度実行します。新しいマシンのエージェントがジョブの処理を開始します。

この問題を回避するには、Administrator ヘルプのエージェントマシンをシャットダウンする手順を参照してください。

AWS 上の詳細クラスタのトラブルシューティング

詳細クラスタの起動に失敗したのはなぜですか。

詳細クラスタが起動に失敗した理由を調べるには、Secure Agent マシンの次のディレクトリにある `ccs-operation.log` ファイルを使用します。

<Secure Agent installation directory>/apps/At_Scale_Server/<version>/ccs_home/

次のテーブルに、クラスタが起動しないいくつかの理由を示します。

理由	考えられる原因
クラスタオペレータはクラスタの更新に失敗しました。	AWS アカウントで VPC 制限に到達した。
マスターノードの起動に失敗した。	マスターインスタンスタイプは、指定されたリージョンまたは可用性ゾーン、または AWS アカウントではサポートされていません。
すべてのワーカーノードを起動できなかった。	ワーカーインスタンスタイプは、指定されたリージョンまたは可用性ゾーン、または AWS アカウントではサポートされていません。
Kubernetes API サーバーが起動できなかった。	ユーザー定義のマスターロールでエラーが発生しました。

これらの理由の少なくとも 1 つが原因でクラスタが起動に失敗すると、`ccs-operation.log` ファイルに `BadClusterConfigException` が表示されます。

例えば、次のようなエラーが発生する可能性があります。

```
2019-06-27 00:50:02.012 [T:000060] SEVERE : [CCS_10500] [Operation of <cluster instance ID>: start_cluster-
<cluster instance ID>]: com.informatica.cloud.service.ccs.exception.BadClusterConfigException: [[CCS_10207]
The cluster configuration for cluster [<cluster instance ID>] is incorrect due to the following error: [No
[Master] node has been created on the cluster. Verify that the instance type is supported.]. The Cluster
Computing System will stop the cluster soon.]
```

クラスタで `BadClusterConfigException` が発生した場合、エージェントはすぐにクラスタを停止して、追加のリソースコストの発生を防ぎ、潜在的なリソースリークを回避します。エージェントは、設定エラーが解決されるまで、クラスタの回復を試みません。

詳細クラスタを起動するジョブを実行しましたが、VPC 制限に達しました。

クラスタの詳細設定で VPC を指定しないと、Secure Agent は AWS アカウントに新しい VPC を作成します。AWS アカウントの VPC の数が各リージョンで制限されているため、VPC 制限に到達した可能性があります。

VPC 制限に達した場合は、詳細設定を編集し、次のいずれかのタスクを実行します。

- それぞれのリージョンを指定します。
- 可用性ゾーンを削除します。次に、既存の VPC および使用するクラスタの VPC 内の特定のサブネットを指定します。

クラスタでプロビジョニングされたクラウドリソースは、クラスタが新しいリージョンまたは既存の VPC で起動する場合に再利用されます。例えば、Secure Agent が VPC 制限のエラーを受信する前に Amazon EBS ボリュームをプロビジョニングしたとします。EBS ボリュームは削除されず、次の起動時に再利用されます。

詳細クラスタを起動するジョブを実行しましたが、次のエラーが発生し、クラスタの作成に失敗しました。

```
Failed to create cluster [<cluster instance ID>] due to the following error: [[CCS_10302] Failed to invoke AWS SDK API due to the following error: [Access Denied (Service: Amazon S3; Status Code: 403; Error Code: AccessDenied; Request ID: <request ID>; S3 Extended Request ID: <S3 extended request ID>)].]
```

Secure Agent が詳細クラスタの作成に失敗したのは、Amazon S3 がエージェントの要求を拒否したためです。

S3 バケットポリシーが、クライアントによる暗号化ヘッダーを含む要求の送信を求めている事を確認してください。

起動に失敗した Kubernetes API サーバーをトラブルシューティングする方法

Kubernetes API サーバーの起動に失敗すると、詳細クラスタの起動に失敗します。この失敗をトラブルシューティングするには、代わりに Kubernetes API サーバーログを使用します。

Kubernetes API サーバーログを見つけるには、次のタスクを実行します。

1. Secure Agent マシンからマスターノードに接続します。
2. マスターノードで、ディレクトリ/var/log/にある Kubernetes API Server ログファイルを見つけます。

詳細クラスタのステージングの場所を更新したら、次のエラーが発生しマッピングに失敗しました。

```
Error while executing mapping. ExecutionId '<execution ID>'. Cause: [Failed to start cluster for [01000D250000000000005]. Error reported while starting cluster [Cannot apply cluster operation START because the cluster is in an error state.]].]
```

詳細設定で S3 ステージングの場所を変更する前にステージングの場所に対する権限を変更すると、このエラーが発生してマッピングが失敗します。

ステージングの場所を更新する場合は、最初に詳細設定で S3 ステージングの場所を変更してから、AWS のステージングの場所に対する権限を変更します。ロールベースのセキュリティを使用した場合は、Secure Agent マシンでステージングの場所に対する権限を変更する必要があります。

エラーを修正するには、次のタスクを実行します。

1. ステージングの場所の権限に対する変更を元に戻します。
2. 詳細設定を編集して S3 ステージングの場所を元に戻します。
3. 設定を保存すると、クラスタが停止します。
4. 設定の S3 ステージングの場所を更新してから、AWS でステージングの場所に対する権限を変更します。

詳細クラスタのステージングの場所を更新したら、エージェントジョブログに次のエラーメッセージが表示されるようになった。

```
Could not find or load main class com.informatica.compiler.InfaSparkMain
```

このエラーメッセージは、クラスタノードがアクセス権限のためにステージングの場所から Spark バイナリをダウンロードできない場合に表示されます。

ジョブが使用するコネクタのタイプに基づいて、ステージングの場所のアクセス権限を確認します。

Amazon データソースへの直接アクセスを持つコネクタ

詳細ジョブで資格情報ベースのセキュリティを使用する場合は、Amazon S3 V2 および Amazon Redshift V2 接続の資格情報がステージングの場所へのアクセスに使用できることを確認します。

詳細ジョブでロールベースのセキュリティを使用する場合は、詳細クラスタおよびステージングの場所が同じ AWS アカウント内に存在することを確認します。

Amazon データソースへの直接アクセスがないコネクタ

ユーザー定義のワーカーロールを使用する場合は、ワーカーロールが詳細ジョブのステージングの場所とデータソースの両方にアクセスできることを確認します。

デフォルトのワーカーロールを使用する場合は、Secure Agent ロールが詳細ジョブのステージングの場所とデータソースの両方にアクセスできることを確認します。

Secure Agent マシンを再起動したら、詳細クラスタのステータスがエラーになりました。

Secure Agent マシンおよび Secure Agent が稼働していることを確認します。次に、Monitor で詳細クラスタを停止します。AWS 環境では、クラスタの停止に 3~4 分かかる場合があります。クラスタが停止したら、詳細ジョブを実行してクラスタを再起動できます。

カスタム AMI を使用してクラスタノードを作成する前に行う必要があること

カスタム AMI (Amazon マシンイメージ) を使用してクラスタノードを作成する場合は、AMI に AWS CLI のインストールが含まれていることを確認します。

Secure Agent は AWS CLI を使用して、タグを Amazon リソースにプロパゲートし、ログを集計します。また、クラスタノードは AWS CLI を使用して初期化スクリプトを実行します。

カスタム AMI の使用方法については、Informatica グローバルカスタマーサポートにお問い合わせください。

Microsoft Azure 上の詳細クラスタのトラブルシューティング

Secure Agent マシンを再起動したら、詳細クラスタのステータスがエラーになりました。

Secure Agent マシンおよび Secure Agent が稼働していることを確認します。次に、Monitor で詳細クラスタを停止します。Azure 環境では、クラスタの停止に 10 分かかる場合があります。クラスタが停止したら、ジョブを実行してクラスタを再起動できます。

詳細クラスタの一部のノードで、次の標準エラーが発生して init スクリプトが失敗しました。

```
Created symlink from /etc/systemd/system/apt-daily.service to /dev/null.  
Created symlink from /etc/systemd/system/apt-daily-upgrade.service to /dev/null.  
Removed symlink /etc/systemd/system/timers.target.wants/apt-daily.timer.  
Removed symlink /etc/systemd/system/timers.target.wants/apt-daily-upgrade.timer.  
E: Could not get lock /var/lib/dpkg/lock-frontent - open (11: Resource temporarily unavailable)  
E: Unable to acquire the dpkg frontend lock (/var/lib/dpkg/lock-frontent), is another process using it?
```

ノードが init スクリプトと同時に内部プロセスを実行していたため、init スクリプトが失敗しました。エラーが引き続き表示される場合は、init スクリプトに必要な期間だけスリープコマンドを配置して、内部プロセスが完了するまで待ちます。

例えば、次のようにスリープコマンドを使用できます。

```
#!/bin/sh

while(sudo lsof /var/lib/dpkg/lock-frontend)
do
echo "Sleeping 10s"
sleep 10
done

sudo apt-get -y update
sudo apt-get install -y expect
```

接続のトラブルシューティング

接続のルールとガイドラインを確認します。接続に関する全般的な情報は「[接続](#)」を参照してください。接続固有の情報については、適切なコネクタのヘルプを参照してください。

接続エラー

使用したい接続がタスクウィザードに表示されません。

接続に対する読み取り権限がありません。タスクまたはタスクフローで使用するすべてのアセットに対して読み取り権限が必要です。組織の管理者に、適切な権限の付与を依頼してください。

アセットのトラブルシューティング

新しいアセットを作成したいが[新規]がナビゲーションバーに表示されない。

ライセンスの期限が切れると、ライセンスに関連付けられた機能にアクセスできません。組織の管理者に連絡してください。

複数のアセットをコピーする必要があるが、その操作が失敗する。

サフィックス「Copy 1」を指定してアセットとその複製をフォルダにコピーする際に、そのフォルダに同じ名前のアセットがすでに存在しており、両方のアセットを保持することを選択すると、Informatica Intelligent Cloud Services がそれらのアセットをコピーしない可能性があります。

例えば、「Mapping_1」と「Mapping_1-Copy 1」を Folder_2 にコピーする際に「Mapping_1」が Folder_2 にすでに存在しているとします。「Mapping_1-Copy 1」は正常にコピーされますが、「Mapping_1」と「Mapping_1-Copy 1」の両方が Folder_2 に存在しているため、「Mapping_1」の場合は失敗する可能性があります。

競合しているアセットの名前を変更してから再試行するか、または一度に1つずつアセットをコピーしてください。

タスクのトラブルシューティング

ジョブの詳細を表示すると、ターゲットに読み込まれなかった行数を確認できます。各エラーの理由の詳細については、エラー行ファイルを参照してください。

ジョブの詳細を表示するには、データ統合で【**マイジョブ**】を選択し、ジョブ名をクリックします。また、モニタの【**すべてのジョブ**】または【**実行中のジョブ**】でジョブの詳細を表示することもできます。

エラー行ファイルは次のディレクトリにあります。

<Secure Agent のインストールディレクトリ>\apps\Data_Integration_Server\data\error

ジョブが完了しない場合は、【**すべてのジョブ**】、【**実行中のジョブ**】、または【**マイジョブ**】 ページでジョブを停止できます。

タスクエラー

マイタスクが失敗し、ジョブの詳細に次のメッセージが表示されます。

DTM process killed for workflow [wf_dss_<workflow id>] session [s_dss_<session id>] because agent is shutdown.
タスクを実行していた Secure Agent が停止したか、タスクの処理中に再起動しました。

Windows に 64 ビット Secure Agent をインストールした後に、マイタスクが失敗します。
次のメッセージがジョブの詳細に表示されます。

Failed to run job because of missing VC++ libraries on the machine that runs the Secure Agent.

タスクを実行する Secure Agent マシンに、MSVCR.DLL ファイルがありません。Secure Agent マシンに、Microsoft Visual C++ 2008 再配付可能パッケージ (x86) をインストールしてください。

マイタスクが失敗し、ジョブの詳細に次のメッセージが表示されます。

The DTM process failed to start due to [CreateProcess error=14001, The application has failed to start because its side-by-side configuration is incorrect. Please see the application event log or use the command-line sxstrace.exe tool for more detail]. 'Failed to run job because of missing VC++ libraries on the machine that runs the Secure Agent'

タスクを実行する Secure Agent マシンが、正しく設定されていない Windows 2008 マシンにインストールされています。Windows 2008 マシンに、Microsoft Visual C++ 2008 再配付可能パッケージ (x86) をインストールしてください。

タスクの詳細を確認する必要がありますが、タスクが見つかりません。

割り当てられたロールにこの種類のタスクを読み取る特権がないか、またはユーザーにこのタスクに対する読み取り権限がない可能性があります。タスクの詳細を表示するには、このタスクの種類に対する読み取り特権を持つロールが割り当てられている必要があります。タスクに対する権限が設定されている場合、そのタスクに対する読み取り権限も必要です。組織の管理者に、適切な特権と権限の付与を依頼してください。

タスクの詳細を表示できますが、タスクを編集できません。

割り当てられたロールにこの種類のタスクを更新する特権がないか、またはユーザーにこのタスクに対する更新権限がない可能性があります。タスクを編集するには、ユーザーにそのタスクに対する更新権限とタスクで使用されているすべてのアセットタイプに対する読み取り権限を持つロールが割り当てられている必要があります。タスクに対する権限が設定されている場合、そのタスクに対する更新権限と読み取り権限が必要です。タスクのいずれかのアセットに対して権限が設定されている場合、それらのアセットに対する読み取り権限も必要です。組織の管理者に、適切な特権と権限の付与を依頼してください。

タスクを編集するとき、接続の 1 つに接続名ではなく空白のフィールドが表示されます。

割り当てられたロールに接続に対する読み取り特権がないか、またはユーザーにこの接続に対する読み取り権限がない可能性があります。タスクを編集するときは、そのタスクで使用されているすべてのアセットタイプに対する読み取り特権が必要です。タスクのアセットに対して権限が設定されている場合、それらのアセットに対する読み取り権限も必要です。予期しない結果を回避するため、すべての変更をキャンセルし、組織の管理者に適切な特権と権限の付与を依頼してください。

ウィザードをキャンセルすると、タスクの詳細を表示して、権限が必要なオブジェクトの名前を確認できます。

タスクを作成するとき、使用する接続が利用可能な接続リストに表示されません。

割り当てられたロールに接続に対する読み取り特権がないか、またはユーザーにこの接続に対する読み取り権限がない可能性があります。タスクを作成するときは、そのタスクで使用するすべてのアセットタイプに対する読み取り特権が必要です。使用するアセットに対して権限が設定されている場合、それらのアセットに対する読み取り権限も必要です。組織の管理者に、適切な特権と権限の付与を依頼してください。

次のエラーが表示されます。

Unknown SQL datatype for field [<Object name.Field name>]. [<Number that represents the datatype>]

データ統合がソースまたはターゲットフィールドのデータ型を認識しません。

マッピングタスクのトラブルシューティング

マッピングタスクを実行するとタスクが失敗し、次のメッセージが表示されます:

TE_7073: Expecting Keys to be ascending.

このエラーは、ソート済みデータにアグリゲータ変換を設定すると発生しますが、データフローの初期段階でデータをソートしないでください。一部の接続タイプについては、データをソートするようにソース変換を設定できます。ソータ変換を使用することもできます。

詳細クラスタサブタスクのトラブルシューティング

ジョブが失敗しましたが、表示できるログがたくさんあります。どこから始めればよいですか。

次の順序でログを調べて、ジョブのトラブルシューティングを行います。

1. 実行プラン。ジョブの Scala コードをデバッグします。
2. セッションログ。ジョブのコンパイルと Spark 実行ワークフローの生成を行うロジックをデバッグします。
3. エージェントジョブログ。Secure Agent が Spark 実行ワークフローを処理するために詳細クラスタにブッシュする方法をデバッグします。
4. Spark ドライバおよびエグゼキュータログ。詳細クラスタがジョブを実行する方法をデバッグします。

Monitor で、実行プラン、セッションログ、エージェントジョブログ、および Spark ドライバログをダウンロードできます。

Spark 実行ログを見つけるには、失敗した特定の Spark タスクの詳細ログの場所をコピーします。次に、クラウドプラットフォームのログの場所に移動し、ログをダウンロードします。

失敗したジョブのログファイルが一部見つかりません。Monitor とクラウドプラットフォームのログの場所の両方からログをダウンロードしようとした。

ジョブに対して生成されるログは、処理中にジョブが失敗したステップによって異なります。

例えば、詳細クラスタにプッシュされる前にジョブが失敗した場合、Spark ドライバおよびエグゼキュータログはログの場所に生成されず、Monitor がクラウドプラットフォームからログをクエリすることもできません。

一部のログファイルはリカバリできますが、ジョブをトラブルシューティングするには、別のタイプのログを使用する必要がある場合があります。

Spark ドライバおよび Spark エグゼキュータログが見つかりません。これらをリカバリできますか。

Spark ドライバログをユーザーインターフェースからダウンロードできない場合、Spark ドライバポッドを使用してログをリカバリできます。Spark エグゼキュータログはリカバリできません。

ジョブを詳細クラスタにプッシュするとき、Secure Agent は 1 つの Spark ドライバポッドと複数の Spark エグゼキュータポッドを作成して Spark タスクを実行します。Spark ドライバポッドを使用して Spark ドライバログをリカバリできますが、Spark エグゼキュータログはリカバリできません。Spark ドライバポッドは、ジョブが成功または失敗した直後に Spark エグゼキュータポッドを削除します。

注: ジョブが成功または失敗したとき、Spark ドライバポッドはデフォルトでは 5 分後に削除されます。トラブルシューティングの支援のためにこの上限を増やす必要がある場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

Spark ドライバログをリカバリするには、次のタスクを実行します。

1. エージェントジョブログで Spark ドライバポッドの名前を検索します。例えば、次のメッセージに、Spark ドライバポッドの名前があります。

```
2019/04/09 11:10:15.511 : INFO :Spark driver pod [spark-passthroughparquetmapping-veryvery-longlongname-1234567789-infaspark02843891945120475434-driver] was successfully submitted to the cluster.
```

Monitor でエージェントジョブログをダウンロードできない場合、ログは Secure Agent マシンの次のディレクトリで入手できます。

```
<Secure Agent installation directory>/apps/At_Scale_Server/<version>/logs/job-logs/
```

エージェントジョブログのファイル名は、*AgentLog-<Spark job ID>.log* の形式を使用します。Spark ジョブ ID はセッションログで見つける事ができます。例えば、セッションログの次のメッセージで、Spark ジョブ ID は *0c2c5f47-5f0b-43af-a867-da011452c19dInfaSpark0* です。

```
2019-05-09T03:07:52.129+00:00 <LdtmWorkflowTask-pool-1-thread-9> INFO: Registered job to status checker with Id 0c2c5f47-5f0b-43af-a867-da011452c19dInfaSpark0
```

2. Spark ドライバポッドが存在することを確認します。ドライバポッドが削除された場合、Spark ドライバログを取得できません。

ドライバポッドが存在することを確認するには、Secure Agent マシンの次のディレクトリに移動します。

```
<Secure Agent installation directory>/apps/At_Scale_Server/<version>/mercury/services/shared/kubernetes/kubernetes_1.21/bin
```

そのディレクトリで、以下のコマンドを実行します。

```
./kubectl get pods
```

3. 次のいずれかの方法で、クラスタインスタンス ID を検索します。

- セッションログでクラスタインスタンス ID を探します。例えば、表示される可能性のあるメッセージには次のようなものがあります。

```
2019/05/07 16:22:00.20 : INFO :[SPARK_2005] Uploading the local file in the path [/export/home/
builds/ws/yxiao_hadoopvm_ML/Mercury/platformdiscal/main/components/cluster/hadoop-tests/cats/edtm/
spark/./target/hadoop3a0b1db6-76ea-4317-8272-5b3a8dfd2171_InfaSpark0/log4j_infa_spark.properties] to
the following shared storage location: [s3a://soki-k8s-local-state-store/k8s-infa/
testcluster2.k8s.local/staging/sess4280021555102778947/log4j_infa_spark.properties].
```

メッセージに表示される次のクラウドストレージの場所に注意してください。

s3a://soki-k8s-local-state-store/k8s-infa/testcluster2.k8s.local/staging/

クラスタインスタンス ID は「k8s-infa」の後に続くエントリです。この場合、ID は testcluster2.k8s.local です。

- ccs-operation.log ファイルでクラスタインスタンス ID を探します。ファイルは Secure Agent マシンの次のディレクトリにあります。

<Secure Agent installation directory>/apps/At_Scale_Server/<version>/ccs_home/

4. Secure Agent マシンにエージェントを開始した sudo ユーザーとしてログインします。

5. Secure Agent マシンの環境変数 KUBECONFIG に次の値を設定します。

<Secure Agent installation directory>/apps/At_Scale_Server/<version>/ccs_home/<cluster ID>/k8s_infa/
kubeconfig.yaml

6. Spark ドライバログを取得するには、Secure Agent マシンの次のディレクトリに移動します。

<Secure Agent installation directory>/apps/At_Scale_Server/<version>/mercury/services/shared/kubernetes/
kubernetes_1.21/bin

そのディレクトリで、以下のコマンドを実行します。

./kubectl logs <Spark driver pod name>

同期タスクのトラブルシューティング

同期タスクのコンポーネントのルールとガイドラインを確認します。

同期タスクのエラー

同期タスクが失敗します。

同期タスクは、次の理由で失敗することがあります。

- すでに実行されている同期タスクを実行しようとしてしました。一度に実行できる同期タスクのインスタンスは 1 つです。
- 同期タスクを実行しようとしてしましたが、対応する Secure Agent が動作していません。Secure Agent が動作していることを確認してください。
- データベースに対してデータの読み書きを行う同期タスクを実行しようとしてしましたが、対応するデータベースサーバーが動作していません。データベースサーバーが動作していることを確認してください。
- 無効なフィールドマッピングを含む同期タスクを実行しようとしてしました。

同期タスクのフィールドマッピングを作成した後にソースまたはターゲットが変更された場合、同期タスクを実行しようすると、次のエラーが表示されます。

TE_7002 Transformation Parse Fatal Error; transformation stopped...

次の場合、同期タスクが失敗します。

- 必須フィールドがフィールドマッピングでマップされていません。同期タスクを作成した後に、デフォルトのフィールドマッピングを変更したか、必須フィールドがソースまたはターゲットに追加された可能性があります。同期タスクを編集し、すべての必須フィールドを追加すると、同期タスクを正常に実行できます。同期タスクのフィールドマッピング内の必須フィールドの詳細については、「タスク」を参照してください。
- フィールドマッピングのフィールドがソースまたはターゲットに存在していません。同期タスクでフィールドマッピングを作成した後に、ソースまたはターゲットの構造が変更された可能性があります。存在しないフィールドを参照する同期タスクのフィールドマッピングを解決してください。
- 無効なフィールド名を含む同期タスクを実行しようとした。フィールド名が無効な場合、タスクは次のエラーで失敗します。
[DTM_10004] The DTM process terminated unexpectedly.
- 同期タスクを実行しようとしたが、データフィルタのフィールドが以下のいずれかのように変更されています。
 - フィールドがソースに存在していません。
 - フィールドのデータ型が変更されています。

最新バージョンのソースに基づいて、同期タスク定義でデータフィルタを編集します。

フラットファイルターゲットには最新ジョブのデータは含まれていますが、以前のジョブのデータは含まれていません。

同期タスクは、フラットファイルターゲットを切り詰めてから、ターゲットデータをファイルに書き込みます。

既存のターゲットデータの上書きを回避するには、セッション実行後コマンドを使用して、別の場所にあるマスタターゲットファイルとターゲットデータをマージします。

データプレビューに、同期タスクのデータセットに対する最新の変更が表示されません。

ユーザーがタスクを設定するときに、同期タスクウィザードでは、接続用のデータセットをキャッシュに格納します。同期タスクウィザードは、タスクの保存後、そのキャッシュを削除し、ユーザーがタスクを設定するたびにキャッシュを更新します。キャッシュを更新するには、タスクを保存またはキャンセルしてから、タスクを編集します。

FTP/SFTP 接続の場合、リモートファイルに合わせてローカルファイルを更新すると、データプレビューにデータセットに対する最新の変更が表示されます。

タスクの作成時にターゲットが表示されません。

ターゲットのリストはタスク操作に基づいて表示されます。詳細については、「タスク」を参照してください。

同期タスクは、タスクに設定された更新/Upsert/削除タスク操作を実行しないで、すべてのデータをターゲットに挿入しました。

保存済みクエリが含まれる同期タスクでアクティブなマップレットを使用すると、同期タスクは、タスクに設定されたターゲットオプションを無視して、データをターゲットに挿入しようとします。

レプリケーションタスクのトラブルシューティング

レプリケーションタスクのコンポーネントのルールとガイドラインを確認します。

レプリケーションタスクのエラー

レプリケーションタスクを作成するときにソース接続を選択しましたが、レプリケート可能なオブジェクトが表示されません。

レプリケーションタスクでソース接続を選択した場合、データ統合はソースに接続して、レプリケート可能なオブジェクトを取得します。接続が有効でないか、接続にソースシステム内のオブジェクトを表示する特権がない場合、データ統合はソースに接続できず、オブジェクトは表示されません。

レプリケーションタスクのターゲットを設定する際に、エラーメッセージが表示されます。

同じソースオブジェクトを同じターゲットオブジェクトにレプリケートするように、複数のレプリケーションタスクを設定することはできません。例えば、Salesforce アカウントデータを SF_ACCOUNT Oracle データベーステーブルに書き込むように、2 つのレプリケーションタスクを設定できません。別のレプリケーションタスクで使用されるものと同じターゲット接続とターゲットオブジェクトを選択すると、エラーが表示されます。

ソース接続のすべてのオブジェクトをレプリケートすると、次のエラーが表示されます。

Duplicate data replication task. The data replication task <name of the other data replication task> is also replicating the same objects from the same source to the same target with the same target prefix as this data replication task. Change the target or enter a different target prefix.

ソース接続の特定のオブジェクトをレプリケートすると、次のエラーが表示されます。

Duplicate data replication task for <object name> object with a target prefix of <target prefix>. The data replication task <name of the other data replication task> is already replicating an object whose target prefixed name is same as this one. Change the target connection or enter a different target prefix or remove the object from the task.

名前が同じソースのデータを同じターゲット接続内の異なるターゲットオブジェクトに書き込むには、異なるターゲットプレフィックスを設定します。詳細については、「タスク」を参照してください。

レプリケーションタスクを実行しましたが、想定される時間内に結果を得られませんでした。

レプリケーションタスクは、次の理由で想定以上に時間がかかることがあります。

- 同時に実行されているレプリケーションタスクが多すぎるため、レプリケーションタスクがキューに入っています。Informatica グローバルカスタマサポートに連絡して、レプリケーションタスクのステータスを確認してください。
- ソース内に大量のデータが含まれています。
- データベースサーバーが停止しているか、アクセスが集中しています。

レプリケーションタスクが失敗したのはなぜですか？

レプリケーションタスクは、次の理由で失敗することがあります。

- ソース接続またはターゲット接続がタイムアウトしたか、動作していない可能性があります。
- Secure Agent が動作していません。
- ターゲットデータベースサーバーが動作していません。データベースサーバーを再起動し、データベースへのテスト接続に成功しても、レプリケーションタスクが失敗する場合は、Secure Agent を再起動します。
- 組織のレプリケーションアプリケーション使用ライセンスが期限切れになっています。
- すでに実行されているレプリケーションタスクを実行しようとしてしました。

レプリケーションタスクが失敗した理由が上記でないことを確認した場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、失敗時のシナリオと可能であればエラーメッセージを提供してください。レプリケーション

レプリケーションタスクが失敗したことを示す電子メール通知を受け取りませんでした。 レプリケーション

セッションが終了した場合、エラーで終了した場合、または失敗した場合に、電子メールを自分に送信するようにタスクを設定できます。すべてのタスクに関する電子メールを受信する必要がある場合は、電子メール通知が自分に送信される組織プロパティを設定するように、組織の管理者に依頼してください。

ターゲットテーブル名が切り詰められています。

ソースオブジェクト名の長さが、リレーショナルターゲットのテーブル名で許可されている最大文字数を超えると、レプリケーションタスクは対応するテーブル名を切り詰めます。詳細については、「タスク」を参照してください。

ターゲットデータベース内のテーブルに、対応するソースオブジェクトと同じデータが含まれていません。

異なるレプリケーションタスクの2つのソースオブジェクトで同じターゲットテーブルが共有される場合、レプリケーションタスクはターゲットテーブル内のデータを上書きします。複数のソースオブジェクトが同じターゲットテーブルに書き込まれる場合、ソースオブジェクトの1つをレプリケートするたびに、レプリケーションアプリケーションはテーブルデータを上書きします。

テーブルが上書きされないようにするには、各レプリケーションタスクで、異なるターゲットテーブル名プレフィックスを使用してください。詳細については、「タスク」を参照してください。

ターゲットデータベース内のカラム名が切り詰められます。

ソースオブジェクト名の長さが最大文字数を超えると、レプリケーションアプリケーションは、ターゲットデータベース内のカラム名で許可されている最大文字数に基づいて、対応するカラム名を切り詰めます。詳細については、「タスク」を参照してください。

レプリケーションタスクのターゲットを作成しようとすると、次のエラーが表示されます。

Please use Reset Target first and then try Create Target again.

このメッセージは、次の理由で表示されます。

- [ターゲットの作成] オプションを2回クリックしました。
- レプリケーションタスクを編集してから、[ターゲットの作成] をクリックしました。

この問題を解決するには、[ターゲットのリセット] をクリックしてから、[ターゲットの作成] をクリックします。

マスキングタスクエラーのトラブルシューティング

マスキングタスクを実行すると、次のエラーが発生する可能性があります。

Either the target does not contain the Account object, or there is a problem connecting to the source or target. Verify the source connection, target connection, and source and target objects. If the problem persists, contact Informatica Global Customer Support.

このエラーは、マスキングタスクがターゲットに接続できないか、ターゲット接続に一部のオブジェクトがない場合に発生します。

REQUEST_LIMIT_EXCEEDED: Total Requests Limit exceeded.

このエラーは、その日の API 使用上限を超えると発生します。

Error loading into target [Object_Name] : Error received from salesforce.com.Fields [].Status code [STORAGE_LIMIT_EXCEEDED].Message [storage limit exceeded].

このエラーは、ターゲットオブジェクトがいっぱいか、上限を超えた場合に発生します。

Reattempt the Salesforce request [handleBulkApiError] due to the error [Invalid session id].

このエラーは、Salesforce.com またはネットワークに一時的な問題がある場合に発生します。既知のサーバー問題があるかどうかを確認するには、<http://trust.salesforce.com> を参照してください。

Error loading into target [RecordType] : Error received from salesforce.com.Fields [].Status code [DUPLICATE_VALUE].Message [duplicate value found: <unknown> duplicates value on record with id: <unknown>].

このエラーは、同じ名前のレコードタイプがターゲットに存在する場合に発生します。

The [Object_Name] object does not contain any fields that you can update.Remove the object and try again.

このエラーは、オブジェクトを更新できないか、レコードを追加できない場合に発生します。オブジェクトを削除して、タスクを実行してください。このエラーは、オブジェクトへの読み取り専用アクセスを持っている場合にも発生する可能性があります。適切な権限を持っていることを確認してください。

Error : Failed to create the external ID field in the target [Object_Name](Error : External ID creation for this object is not currently supported.Select another object.If the problem persists, contact Informatica Global Customer Support.)

このエラーは、アプリケーションがターゲットに外部 ID を作成できない場合に発生します。ターゲットオブジェクトにデータを upsert するには、外部 ID フィールドが必要です。アプリケーションで外部 ID フィールドの作成が許可されていない場合は、ターゲットオブジェクトにデータを upsert できません。

The selected object repeatedly calls one or more mandatory objects that are not supported.Remove the object and run the task.

このエラーは、複数オブジェクトで定義されている Salesforce オブジェクトがソース組織に存在しない場合に発生します。

Cloud Masking mapgen failed.Contact Informatica Global Customer Support.

com.informatica.ilm.tdms.mapgen.exceptions.CyclicRelationException: Cyclic schemas are not supported on Salesforce.

このエラーは、オブジェクトセット内の循環リレーションが原因で発生します。そのような循環リレーションを含むオブジェクトを削除してください。

INSUFFICIENT_ACCESS_ON_CROSS_REFERENCE_ENTITY

このエラーは、ターゲットに関連オブジェクトがすべて含まれておらず、ターゲットへの書き込みを行うための権限が不十分な場合に発生します。

Masking page is empty for inplace and instream masking.

このエラーは、インプレースマスキングのソースに対する読み取り専用アクセスを持っているか、インストリームマスキングのターゲットに対する読み取り専用アクセスを持っている場合に発生します。マスキングタスクを作成するときは、マスキングページは空であり、フィールドを表示できません。

SFDC_31102 [FATAL] Query failed.[MALFORMED_QUERY: SOQL statements cannot be longer than 20000 characters.]

このエラーは、SOQL が 20000 文字を超過すると発生します。SOQL 文字制限を増やすには、Salesforce にお問い合わせください。

Error loading into target [OpportunityLineItem]: Error received from salesforce.com.Fields [UnitPrice].Status code [FIELD_INTEGRITY_EXCEPTION].Message [field integrity exception: UnitPrice (only one of unit price or total price may be specified)].

この問題は、OpportunityLineItem オブジェクトで UnitPrice と TotalPrice の両方のフィールドを表示および更新できるように発生します。両方のフィールドにレコードを挿入すると、タスクに失敗します。この問題を解決するには、OpportunityLineItem オブジェクトにレコードを挿入する場合に、UnitPrice フィールドまたは TotalPrice フィールドに無効化マスキングを適用します。

Error loading into target [OpportunityContactRole]: Error received from salesforce.com.Fields [].Status code [INVALID_FIELD].Message [Foreign key external ID: 003o000000a67jyaay not found for field DMASK_EXTERNAL_ID__c in entity Contact].

この問題は、挿入操作を実行する場合に、外部 ID を作成できなかったり、OpportunityContactRole オブジェクトの一意のフィールドを選択できなかったりするために発生します。更新/挿入操作を実行し、OpportunityContactRole オブジェクトの idlookup フィールドを選択してエラーを回避します。

PowerCenter タスクのトラブルシューティング

PowerCenter タスクのコンポーネントのルールとガイドラインを確認します。

PowerCenter タスクのエラー

ワークフロー XML ファイルをインポートすると、次のエラーが表示されます。

The PowerCenter XML file is empty, please select a valid PowerCenter XML file.

ワークフロー XML が空です。

ワークフロー XML ファイルをインポートすると、次のエラーが表示されます。

The PowerCenter file content type is not text/xml, please select a valid PowerCenter XML file.

ワークフロー XML ファイルが無効です。

65 個以上のパーティションを使用して PowerCenter タスクを実行すると、次のエラーが表示されます。

TM_6710 Error: Unable to allocate storage for statistics for transformation <transformation name>.

PowerCenter ワークフローでは、ソースおよびターゲットに 11 個以上のパーティションを含めることはできません。

PowerCenter タスクを実行すると、次のエラーが表示されます。

PowerCenter task <PowerCenter task name> failed to run. Another instance of the task is currently executing.

PowerCenter タスクの複数のインスタンスを同時に実行することはできません。スケジュールに従って実行されるようにタスクを設定している場合は、スケジュールされたタスクの間隔を延ばして、タスクの複数のインスタンスが同時に実行されないようにします。タスクを手動で実行する場合は、タスクの現在実行中のインスタンスが完了するのを待ってから、再度インスタンスを開始します。モニタの[すべてのジョブ]ページまたは[実行中のジョブ]ページ、またはデータ統合の[マイジョブ]ページで実行中のタスクを表示できます。

PowerCenter タスクが完了しません。

Windows 7 (64 ビット) の Secure Agent によって実行されている PowerCenter タスクは完了しない可能性があります。問題を解決するには、Secure Agent サービスに対してネットワークログインを設定します。

マッピングのトラブルシューティング

マッピングの設定のルールとガイドラインを確認します。

ソースフィールドのメタデータに多くの変更を行いました、それを元に戻したいと考えています。[同期化] アイコンを試しましたが、何も実行されません。どうしたらよいでしょうか。

ソーストランスフォーメーションで更新されたフィールドメタデータは、同期では元に戻りません。フィールドメタデータを手動で更新できます。または最初からやり直すことができます。その場合は、ソースオブジェクトをクリアして選択するか、新しいソーストランスフォーメーションを作成してください。

トランスフォーメーションでフィールド名競合エラーメッセージが表示されます。トランスフォーメーションで、受信フィールドの名前を変更するフィールドルールを作成しましたが、引き続きエラーが表示されます。

フィールド名の競合は、最初の問題の発生後、マッピング中は続く可能性があります。最初にフィールド名競合エラーメッセージが発生したトランスフォーメーションを見つけ、フィールド名を変更してからそのフィールドをトランスフォーメーションに組み込みます。

コンパイルされたマッピングのフィールド数がしきい値を超えているため、マッピングが失敗しました。どうすれば良いですか？

マッピングには、入力および出力フィールドを最大 7,000,000 個含めることができます。階層プロセッサトランスフォーメーションが含まれるマッピングの場合、複雑なデータを使用するのでこの制限に達する可能性が高くなります。階層プロセッサトランスフォーメーションに含まれる結合、子フィールド、ネストされたフィールド、およびフラット化された配列が多いほど、マッピングがフィールド制限を超える可能性は高まります。

マッピングが制限を超過した場合、マッピングコンパイルログに次のメッセージが表示されます。

[LDTM_0502] The mapping [<mapping name>] failed because the number of fields in the compiled mapping exceeds the threshold: [7,000,000]. Number of fields: [<actual number>]. Create multiple mappings to process the data incrementally.

エラーを解決するには、複数のマッピングを作成して複雑なデータを段階的に処理し、マッピングのサイズを小さくします。

スケジュール済みタスクのトラブルシューティング

タスクがスケジュールされた時間に実行されません。

スケジュールがタスクを開始しようとしたときに、タスクの別のインスタンスがすでに実行されている場合、タスクはタスクがスケジュールされた時間に実行されません。例えば、5 分ごとに実行するようにタスクをスケジュールしたとします。最初のタスクは 12 pm に開始しますが、12:06 pm まで完了しません。最初のインスタンスが完了しないため、タスクの 2 番目のインスタンスは 12:05 pm に実行されません。データ統合は、次のタスクを午後 12:10 に開始します。

この問題を解決するには、次のタスクの実行が開始される前にタスクが完了するように、スケジュールを変更します。

セキュリティのトラブルシューティング

次のセキュリティ違反エラーを受信しました。

There may have been a security violation while accessing the site. Verify that there are no malicious scripts running in your browser. This error also appears when you submit the form multiple times through a browser reload.

このエラーは、ページのオプションをクリックしたときに、そのページが前回のクリックによるロードを実行中であるときに発生します。データ統合に戻るには、[\[ここ\]](#) のリンクをクリックしてください。

接続、レプリケーションタスクなどのオブジェクトに関する詳細を表示しようとすると、[\[オブジェクトが見つかりません\]](#) ページが表示されます。

オブジェクトは最近削除されました。オブジェクトが存在しないと、[\[オブジェクトが見つかりません\]](#) ページが表示されます。ページを更新して、現在のオブジェクトを表示します。

タスクを実行しようとすると、[\[アクセスが拒否されました\]](#) ページが表示されます。

使用しているユーザーアカウントでの実行許可がないタスクを実行しようとすると、[\[アクセスが拒否されました\]](#) ページが表示されます。タスクを実行するための適切なロールまたはアセットの権限がない可能性があります。タスクを実行する必要がある場合は、組織の管理者にユーザーアカウントの確認を依頼してください。

索引

C

Cloud Application Integration コミュニティ
URL [4](#)
Cloud 開発者コミュニティ
URL [4](#)

I

Informatica Intelligent Cloud Services
Web サイト [4](#)
Informatica グローバルカスタマサポート
連絡先情報 [5](#)

P

PowerCenter タスク
トラブルシューティング [21](#)

S

Secure Agent
トラブルシューティング [6](#)

W

Web サイト [4](#)

あ

アップグレード通知 [5](#)

え

エラー行ファイル
場所 [13](#)

か

カラム名
切り詰め [18](#)

し

システムステータス [5](#)

す

ステータス
Informatica Intelligent Cloud Services [5](#)

せ

セキュリティ
トラブルシューティング [23](#)

た

タスク
トラブルシューティング [13](#)

て

データレプリケーションタスク
エラー [18](#)
トラブルシューティング [17](#)
データ同期タスク
トラブルシューティング [16](#)
テーブル名
切り詰め [18](#)

と

トラブルシューティング
PowerCenter タスク [21](#)
Secure Agent [6](#)
エラー行ファイル [13](#)
セキュリティ [23](#)
タスク [13](#)
データレプリケーションタスク [17](#)
データ同期タスク [16](#)
詳細クラスタ [9](#), [11](#)
詳細クラスタサブタスク [14](#)
接続 [12](#)

ま

マッピングタスク
トラブルシューティング [14](#)

め

メンテナンスの停止 [5](#)

ろ

ログインの拒否
トラブルシューティング [23](#)